



Active Japan!!
Sports-tourism

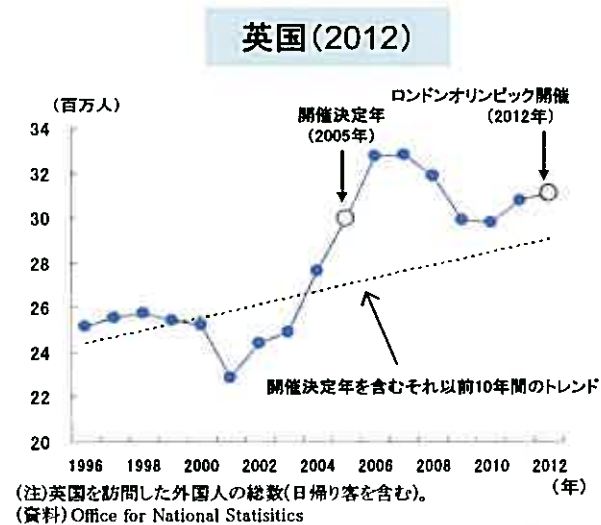
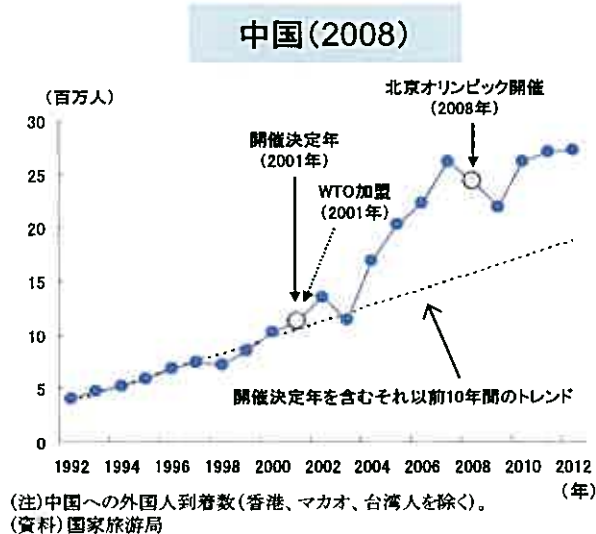
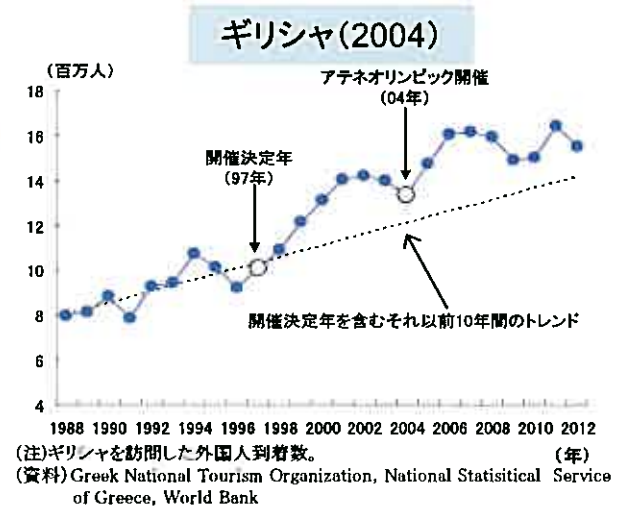
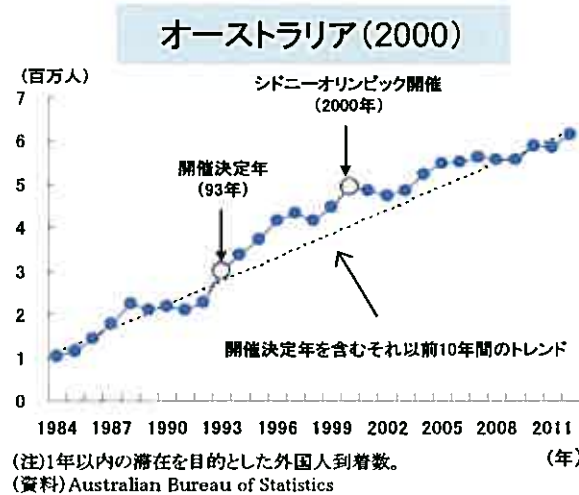
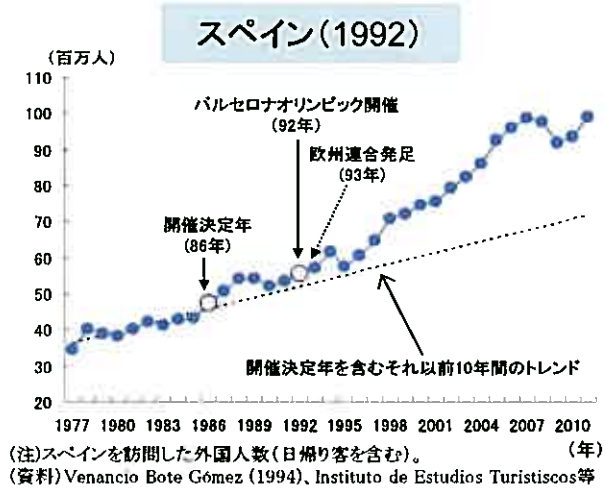
過去のオリンピック・パラリンピック における観光の状況

観光庁スポーツ観光推進室

経済効果の試算

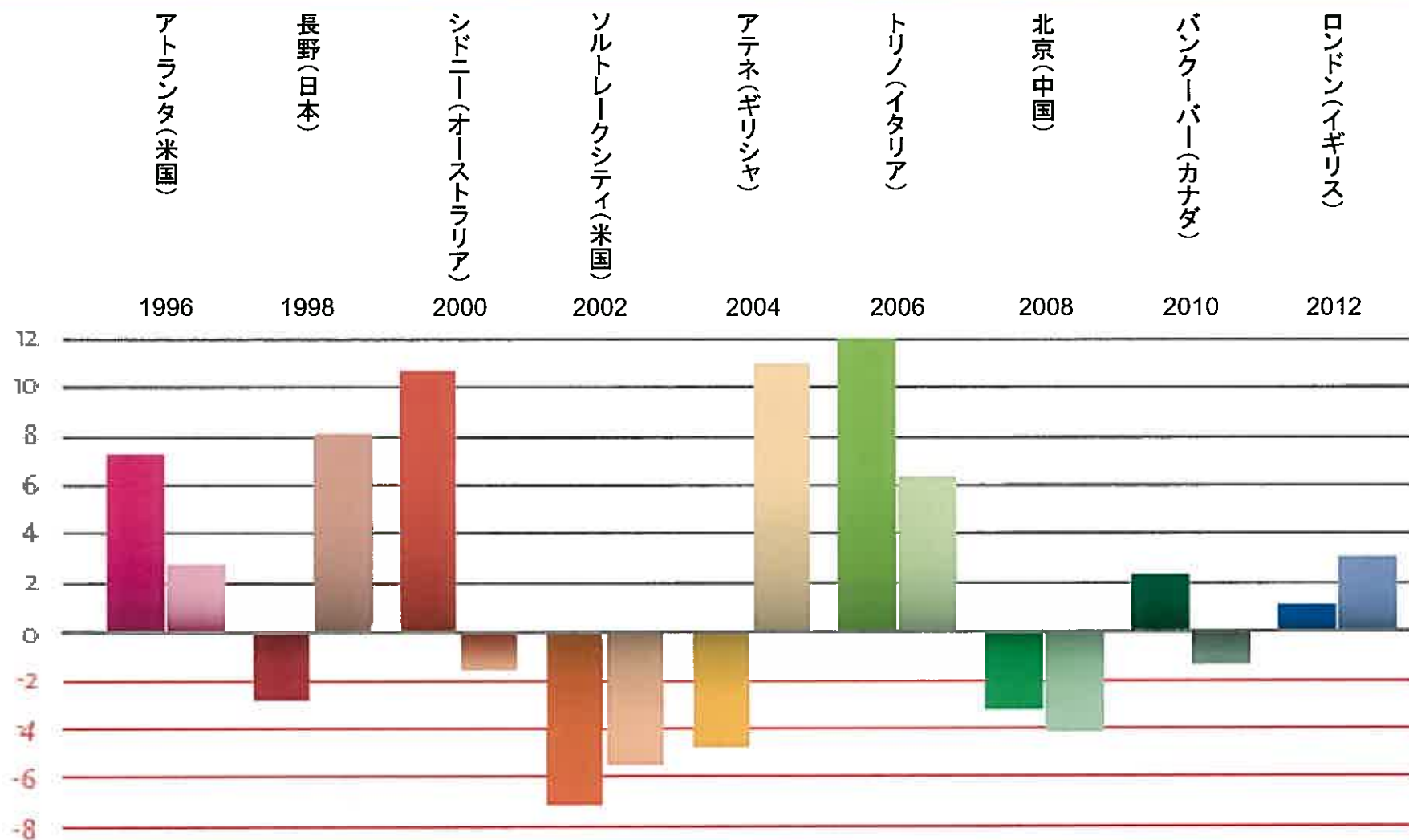
試算を行った主体	経済波及効果 (生産誘発額)	雇用誘発数	観光関係
東京2020オリンピック・ パラリンピック招致委員会 (2012年6月)	約2兆9600億円	約15万2千人 (東京都:約8万4千人 その他の地域:約6万8千人)	—
みずほ総合研究所株式会社 (2013年9月)	約2.5兆円	約21万人	①観戦客消費 2074億円 ②観光客数 海外80万人を含む505万人
森記念財団 都市戦略研究所 (2014年1月)	約19.4兆円	約121万人	①訪日外国人の増加 (消費拡大)1570億円 ②宿泊施設の建設増加 (建築投資額増大)3950億円

オリンピック・パラリンピック開催決定後は、開催国のインバウンド需要が長期間にわたって喚起される傾向がある



出典：みずほ総合研究所株式会社

オリンピック・パラリンピック開催国のインバウンドの増減



※ 左側のグラフは開催前年に対する開催年の増減割合を、右側のグラフは開催年に対する開催翌年の増減割合を示す。

- 2012年通年の訪英外国人旅行者数は対前年比 0.9%増。
- オリンピック・パラリンピックの開催された第3四半期(7月～9月)の訪英外国人旅行者数は対前年比 4.2%減。
- オリンピック・パラリンピックを主目的とする訪英外国人旅行者の9割はパッケージツアーではなくFIT。

◆年別比較 (2010年～2012年、及び2013年第2四半期までの累計数) (単位：千人)

2010年	2011年	2012年	2013年
29,803 (対前年比0.3%減)	30,798 (対前年比3.3%増)	31,084 (対前年比0.9%増)	15,282 (第2四半期までの累計)

◆四半期毎比較 (2010年～2013年第2四半期) (単位：千人)

	2010年	2011年	2012年	2013年
第1四半期(1月～3月)	5,904	6,113	6,249 (対前年同期比2.2%増)	6,389
第2四半期(4月～6月)	7,754	8,307	8,457 (対前年同期比1.8%増)	8,893
第3四半期(7月～9月)	8,985	9,172	8,786 (対前年同期比4.2%減)	—
第4四半期(10月～12月)	7,160	7,205	7,592 (対前年同期比5.4%増)	—

○大会の開催

- ・204ヶ国より約10500人の選手が参加
- ・登録メディアだけで21000
- ・世界中で約48億人が視聴

大会開催と連動して、大規模なマーケティング活動や数々のPR活動、そして、次のような種々のプログラムが展開された。

○英国全土における文化プログラムの展開

○聖火リレーの英国全土縦横断


- ・約13000kmの70日間にわたる旅
- ・1000カ所以上の経由地点(英国民95%が1時間以内でアクセスでき、1500万人が参加)

○ライブサイトの活用

- ・70カ所以上に大型スクリーンによるライブサイトが設置
- ・800万人が参加

○ロンドン2012インスパニアプログラム

- ・ロンドン2012競技大会に鼓舞された非営利事業を顕彰。
- ・「教育」、「ビジネス」、「文化」、「スポーツ」等をテーマとして、英国全土で2713プロジェクトが採択され、1000万人以上が参加。



世界主要50か国を対象とした「総合的な国家ブランド」ランキングで、英国は順位を一つ上げ4位にランクイン。

63%が、オリンピックのおかげで英国旅行への関心が高まったと回答。

75%が、ロンドン以外の英国各地も訪れてみたいと回答。

事前トレーニングキャンプ地について(その1)

- ① 2002年FIFAワールドカップ日韓大会時の状況について(自治体国際化フォーラム、えひめ地域政策研究センター(ECPR)より)
- 1999年1月に(財)2002年ワールドカップサッカー大会日本組織委員会(JAWOC)がトレーニングキャンプの候補地の募集を開始。
 - 募集にあたり、「2面以上の良質な芝のグラウンド」「夜間照明施設」「屋内トレーニング施設」「選手・関係者を収容できる施設」「宿泊施設からバスで15分以内の距離」など21項目の条件が付された。
 - 全国から84箇所の自治体から応募申請があり、2000年11月に開催されたJAWOC理事会において、全てキャンプ候補地として承認。
 - 各候補地の招致活動の結果、32チーム中24チームが、28の自治体の所有する施設において準備キャンプ及びチーム本部を設置することが決定。
 - 各自治体においては、来訪したチームやサポーターに対し、自分の国や街を伝えようとする事のみならず、大会を機会に訪れる国の文化、食、風習等を理解し、様々な交流を行った。

2002年FIFAワールドカップ時の主な合宿地

国名	キャンプ地(都道府県)	備考
ドイツ	宮崎市(宮崎県)	準備キャンプ・チーム本部
サウジアラビア	調布市(東京都)	準備キャンプ・チーム本部
アイルランド	出雲市(島根県)	準備キャンプ・チーム本部
	千葉市(千葉県)	チーム本部
カメルーン	中津江村(大分県)	準備キャンプ
	富士吉田市(山梨県)	チーム本部
	河口湖町(山梨県)	
アルゼンチン	広野町(福島県)	準備キャンプ・チーム本部
	楢葉町(福島県)	
ナイジェリア	平塚市(神奈川県)	準備キャンプ・チーム本部
イングランド	津名町(兵庫県)	準備キャンプ・チーム本部
スウェーデン	宮崎市(宮崎県)	準備キャンプ・チーム本部
イタリア	仙台市(宮城県)	準備キャンプ・チーム本部
	十日町市(新潟県)	準備キャンプ・チーム本部
	富山市(富山県)	チーム本部
エクアドル	鳥取市(鳥取県)	準備キャンプ・チーム本部

国名	キャンプ地(都道府県)	備考
メキシコ	福井県	準備キャンプ・チーム本部
	三国町(福井県)	
日本	磐田市(静岡県)	準備キャンプ・チーム本部
ロシア	清水市(静岡県)	準備キャンプ・チーム本部
ベルギー	熊本市(熊本県)	準備キャンプ・チーム本部
	大津町(熊本県)	
チュニジア	奈良県	準備キャンプ・チーム本部
	佐伯市(大分県)	準備キャンプ
フランス	指宿市(鹿児島県)	準備キャンプ
セネガル	藤枝市(静岡県)	準備キャンプ
デンマーク	和歌山県	準備キャンプ・チーム本部
ウルグアイ	裾野市(静岡県)	準備キャンプ
	御殿場市(静岡県)	
スロベニア	美作町(岡山県)	準備キャンプ
南アフリカ	上野市(三重県)	準備キャンプ
パラグアイ	松本市(長野県)	準備キャンプ
コスタリカ	鈴鹿市(三重県)	準備キャンプ

出典:自治体国際化フォーラム http://www.clair.or.jp/~/forum/forum/articles/sp_iimu/1571/INDEX.HTM

事前トレーニングキャンプ地について(その2)

② 2008年北京オリンピック・パラリンピック競技大会時の状況について

○世界各国より50チーム以上が日本の各地で事前トレーニングを実施。(Tokyo2016東京オリンピック・パラリンピック招致委員会より)

【例】香川県(陸上・カヌー・ボート)の合宿練習状況(香川県、北京五輪香川合宿オフィシャルブログより)

○県は、2008年1月にフィンランド及びデンマークチームと北京オリンピック事前合宿の実施について合意

○期間は7月28日～8月21日

○選手・役員延べ619人、見学者延べ3000人、通訳ボランティア57人、練習会場ボランティア(高校生)延べ250人

○フィンランド(陸上・カヌー・ボート)・デンマーク(陸上)の他、エストニアやエジプトの陸上選手らもデンマークといっしょに参加

○合宿の他、歓迎交流会や投てき記録会などを実施

日付	香川県の招致活動及び選手団の動きについて
2007年9月	北欧4カ国の在日大使を訪問し、香川県での事前合宿を要請
2007年11月	フィンランドボートチームの選手・コーチによる香川県視察
2007年12月	フィンランドカヌーチームのコーチによる香川県視察
2008年1月28日	香川県知事が定例記者会見で、フィンランド及びデンマークチームと北京オリンピック事前合宿の実施について合意した旨を発表
2008年7月28日	カルヤライネン選手(フィンランド ハンマー投)らが来県 香川合宿開始
2008年7月29日	フィンランドボートチームなど来県
2008年8月5日	フィンランドチーム20人、デンマークチーム14人来県。 その後、次々と来県
2008年8月6日	フィンランドボートチーム北京へ出発
2008年8月8日	フィンランドチーム19人来県(大規模な来県はこの日まで)
2008年8月11日	オリンピックの競技日程に合わせて北京へ出発 (大規模な離県はこの日～18日)
2008年8月21日	最後まで残っていた、ホルメン選手(フィンランド マラソン)らが北京へ出発。香川合宿終了

出典:香川県公式サイト <http://www.pref.kagawa.lg.jp/>

北京五輪香川合宿オフィシャルブログ <http://olympic.ashita-sanuki.jp/>

※2008年北京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催期間は8月8日～8月24日及び9月6日～9月17日

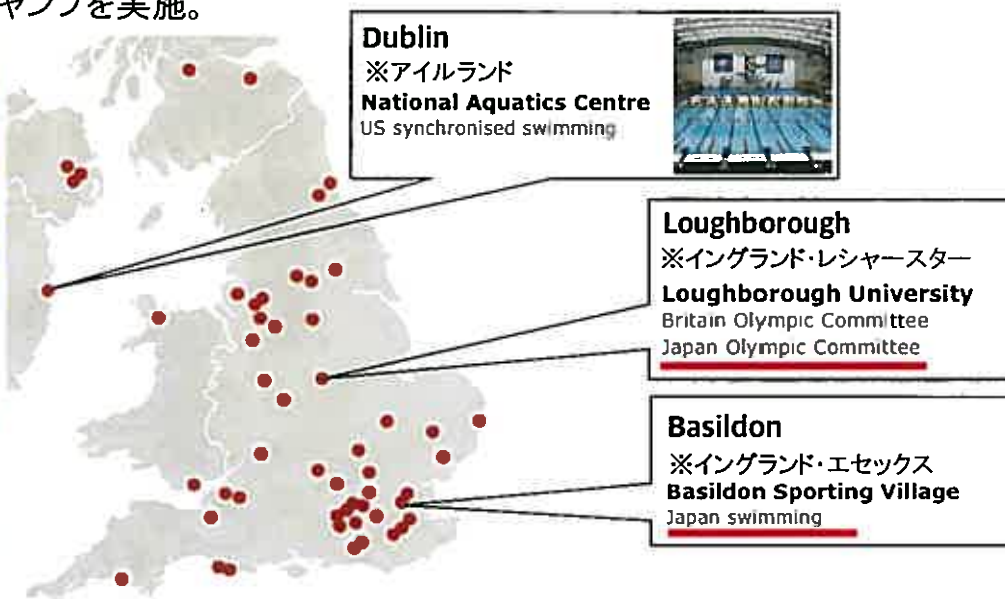


出典: Tokyo2016東京オリンピック・パラリンピック招致委員会

<http://www.shochi-honbu.metro.tokyo.jp/bid-committee/jp/whytokyo/camp.html>

事前トレーニングキャンプ地について(その3)

- ③ 2012年ロンドンオリンピック・パラリンピックの状況について(ガーディアン紙、テレグラフ紙より)
 - 2008年、ロンドンオリンピック・パラリンピック組織委員会(LOCOG)は、ロンドン以外の地域にオリンピック・レガシーを拡散させるため、事前トレーニングキャンプ候補地としてLOCOGから公認された600施設のリストを発行し、同年に開催された北京オリンピック・パラリンピック競技大会で各国オリンピック委員会等に配布した。
 - 各地や大学が、各国オリンピック委員会や各国競技団体に対して、熱心に招致活動を展開。
 - LOCOG公認候補地でトレーニングキャンプを行う場合、キャンプを実施する国のオリンピック委員会に対して、LOCOG から最大25000ポンドが支給される仕組み。
 - 100以上のチームが英国でキャンプを実施。



出典:英・ガーディアン紙公式サイト
<http://www.theguardian.com/sport/interactive/2012/jun/26/london-2012-olympics-training-interactive-map>

事前トレーニングキャンプ地について(その4)

④ 2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会の現在の状況について

○2011年5月25日の報道から

州と都市の自治体の代表を集めて、事前合宿地に関するセミナーが開催された。ブラジル全国から選ばれた355の候補地が次のステップに進む。

○2012年1月24日の報道から

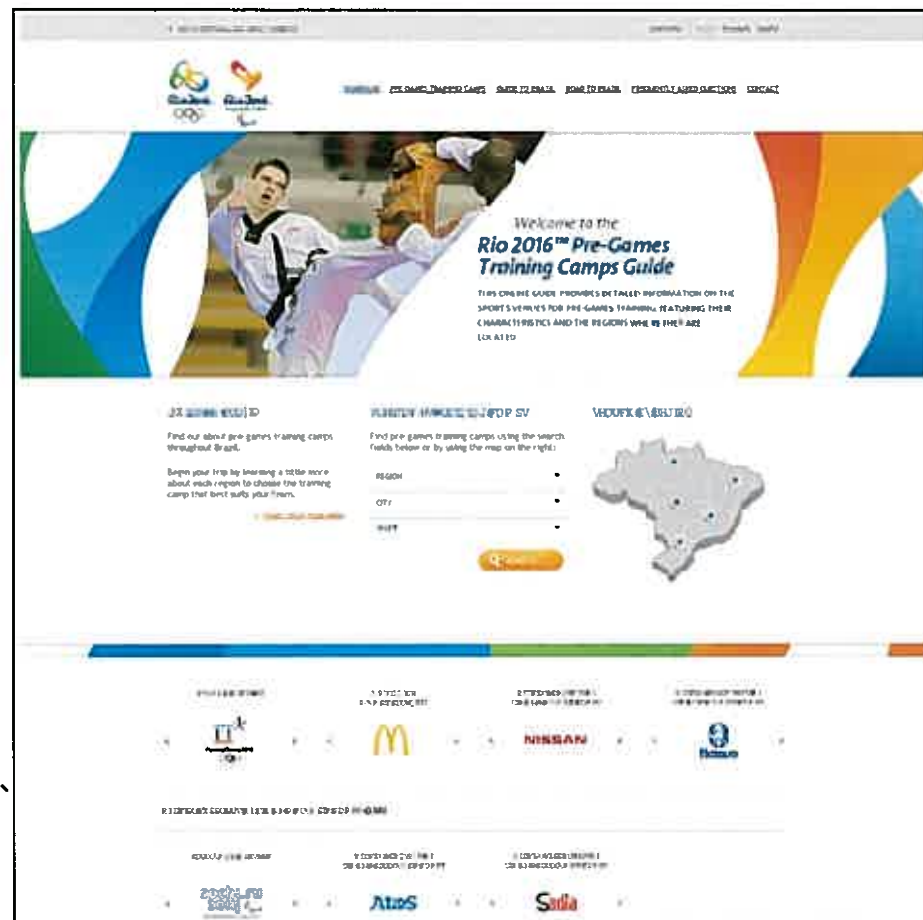
2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック組織委員会は、事前トレーニングキャンプ候補地として73都市、172施設を承認したことを発表。承認された施設は、国際競技団体やNOCs、NPCsによって指定された厳しい技術基準を満たしているか否かの12か月の評価を経て選抜された。

○2012年7月25日の報道から

2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック組織委員会は、来週ロンドンで各国代表を集め、ブラジルにおける事前合宿施設の公式ガイドを発表する。これは主にオリンピック経験が少ない国が活用するためのもので、オリンピック大国は既に直接、各クラブや都市との交渉を進めている。

○2013年3月12日の組織委員会公式サイトから

2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック組織委員会は11日、オリンピック事前合宿施設のリスト登録手続きを新たにし、技術的要件を満たし国際競技団体の推薦のあるブラジル全土のスポーツ施設からの募集を4月19日まで受け付ける。新たにリストに加えられる可能性が高いのは、連邦・州・市、公立・私立学校、軍隊、民間スポーツクラブ、スポーツ系企業等の所有する施設。



参考:Rio 2016™ Pre-Games Training Camps Guide <http://rio2016.com/pregamestraining/>

⑤ 2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップでは、(公財)ラグビーワールドカップ2019組織委員会が2015年3月頃の試合開催地決定後、事前キャンプ地の選定プロセスを始める予定。